

# 島根県の水産業の現状と今後の対応方向

## 現状

豊かな海・湖・川に育まれた島根県の水産業

### (1) 漁場形成

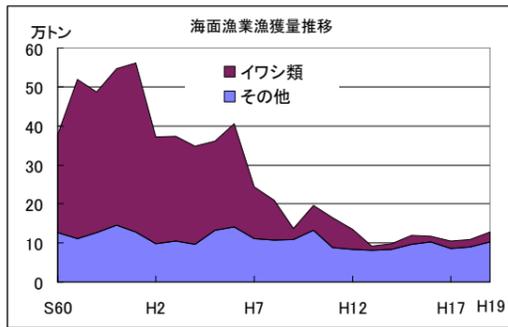
高い生産力を有する、恵みの海

沖合海域は、朝鮮半島に続く、広大な大陸棚と隠岐諸島を有し、カレイ、ズワイガニ等の底魚類と、対馬暖流を回遊する、イワシ、アジ、サバ等の浮魚類の好漁場を形成

### (2) 海面漁業

生産量は全国 10 位、食卓を彩る島根の魚

- 生産量 12.7 万トン (H19 速報値)、生産額は 210 億円 (H18)
- 生産量の減少の主要因は、イワシ等の資源変動の大きな魚種。これら以外の魚種の生産は、近年、8~10 万トンで安定。
- 主な魚種の生産量 (H19 速報値)  
まあじ：4.6 万トン (全国 1 位)  
ぶり類：8.0 千トン (全国 2 位)  
かれい類：4.5 千トン (全国 2 位) べにずわいがに：38 千トン (全国 2 位)



### (3) 内水面漁業

生産量は全国 2 位

全国一のシジミ生産とアユが遡上する清流

- 生産額は約 50 億円
- シジミは全国 1 位の水揚げ (6,793 トン) (H18)。全国シェアは約 5 割
- 高津川等の河川ではアユが高い評価。

### (4) 企業型経営の多い漁業・養殖業

- 高い販売金額を有する経営体が多い。
- 1 億円以上の販売金額を有する漁業経営体も 41

業種	経営体数	販売金額 (億円)				
		計	100万円未満	100~500	500~1000	1000万円以上
漁業・養殖業	3,061	1,231	1,185	278	367	
業	割合 (%)	100	40	39	9	12

注：漁業・養殖業には宍道湖を含む

### (5) 水産加工業

浜田のカレイの塩干品は全国 1 位

- 水産加工業も盛ん。229 億円の出荷額 (H18)。
- 特にカレイの塩干品は全国一の生産量 (H19 速報値 6.0 千トン)、シェアは約 5 割。

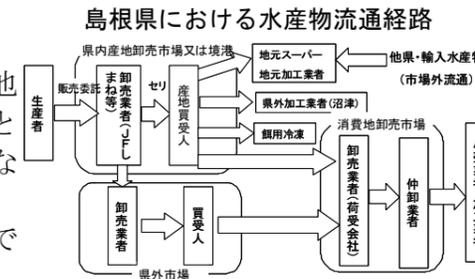
### (6) 地域を支える基幹産業

- 隠岐では、漁業生産額が 94 億円 (H15)、域外市場産業の中では突出して 1 位
- 浜田では、漁業生産額で約 65 億円のほか、水産加工業の売上高は約 118 億円

## 問題点・課題と現在の取り組み

### 価格の低迷による経営収支の悪化

- 島根県の水産物の太宗は市場流通 (他県では、魚価向上を狙って、量販店との直接取引等の市場流通に依存しない取組が活発化)
  - 鮮度保持の向上により、魚価向上ができる水産物も多々ある
  - 安全・安心への関心の高まり、食の簡便化等、多様な消費者ニーズに対応した、売れる商品づくりが必要
- **どんちっちあじ (浜田)、いわがき (隠岐)、隠岐松葉がに (隠岐) 等のブランド化の取り組みが開始**
- **近赤外線を用いてアジ等の脂質含有量 (どんちっちアジの判定に活用) 及びカニの身入りを評価する技術を開発**
- **水産アドバイザーの助言を踏まえ、水産物の販売戦略を検討**
- **JFしまねがイオンと直接取引を開始**



### 漁業就業者の高齢化と人手不足

- 海面漁業就業者の高齢化が進行。(H15 年には、4247 人のうち、43%が 65 歳以上の高齢者)
  - 漁業就業者数の減少により、特に基幹漁業である、まき網漁船及び沖合底びき網漁船では、人手不足が深刻
- **長期研修等の新規着業支援を実施。自営・雇われを含め、毎年 10 数名~20 数名が着業**

### 漁船の高船齢化、燃油価格の高騰等厳しい経営環境の基幹漁業

- 基幹漁業のまき網漁船、沖合底びき網漁船の平均船齢は 18 年以上
  - 高額な漁船の更新投資 (沖底で 7 億!) が経営の継続に支障
  - 燃油価格が大幅に上昇 (A 重油価格 H20 年 8 月:120 円 over)
  - 関連する加工業等も疲弊 (浜田では仲買業者・加工業者等が大きく減少)
- **浜田において、収益性の高い漁船漁業を目指すための漁業者・流通業者等の話し合いが開始。隠岐の中型まき網漁業者が運搬船共同利用計画を策定**
- **国、県の事業の活用による燃油価格高騰への対応**

### 資源状況に大きく左右される漁業

- 浮魚 (イワシ、アジ、サバ等) は資源変動が大きい
  - 一部の底魚類も資源状況がよくない
- **アカガレイ、ズワイガニを対象とした資源回復計画を策定**

### 宍道湖・中海等の汽水域及び内水面の水産資源の減少

- 宍道湖のシジミの漁獲量は H18 年以降、大きく減少
  - アユの種苗を継続的に大量放流しているものの、漁獲量の減少に歯止めがかからない
  - 森山堤防開削による本庄水域の環境改善の把握
- **シジミ資源回復のための取組 (湖底耕うん、種苗放流、漁獲量規制等) の実施**
- **「しまねの鮎づくりプラン」の策定 (H18 年 3 月)**

## 今後の対応方向

### ■ 消費者に買ってもらえる商品づくり

- 新たなブランド魚種の確立を目指し、マーケットへの販売戦略の確立 (候補: メダイ、ブリ、サワラ等)。
- 近赤外線を用いて脂質含有量を評価する技術を他の魚種への展開及びカニの身入り判定技術の活用
- 合併した JFしまねと連携し、各地に分散している小規模な産地市場の統合を促進

### ■ 地域の実情にあった担い手づくり・力強い基幹漁業の育成

- 新規就業者への支援を継続
- 意欲ある担い手を組織化し、中核的漁業者協業体の育成
- 水産高校との連携による漁業の担い手づくりの促進
- 特に、基幹漁業について、省エネ・省人化モデル漁船や魚価向上対策等の検討継続し、構造改革を強力に推進

### ■ 水産資源の培養管理

- 漁業者と行政が連携し、資源回復を図るための計画 (資源回復計画) の対象魚種・漁業種類の拡大 (候補: まき網漁業 (イワシ、アジ、サバ))
- 重要魚種の種苗生産・放流・技術開発の促進
- 特産的な魚種 (アマダイ、ウスメバル) を対象とした漁場の造成
- 宍道湖のシジミ減少原因の把握及び資源回復の取組の推進
- しまねの鮎づくりプランの推進
- 本庄水域における水産振興策の検討

**力強く、魅力ある島根の水産業の確立**